

2年 普通科、国際探求学科の「探究応用」の取組

1. 概要

SR科は学校設定科目「理数探究応用」において探究活動を行い、生徒研究発表会に取り組んできた。この活動を普通科、国際探求学科にも広め、全校的に探究活動を行うため、平成23年度から「総合的な学習（探究）の時間」において課題研究を実施してきた。また、昨年度より学校設定教科「小田高リサーチ」の学校設定科目「探究応用」を設定し取り組んでいる。その中で、自ら設定した課題について調査研究することにより、問題解決能力、論理的思考力、プレゼンテーション能力の育成を目指している。ここで培った力や能力、態度は大学・学科選択を考える際の基盤ともなるであろうし、また、将来、大きな課題に新たに立ち向かう場合においても、必ず役立つのではないかと考えられる。

2. 仮説

本校が設定する「現代の諸問題に主体的に関わることができる人材の育成を目指す」という課題に対して、普通科、国際探求学科の生徒にも「探究応用」の時間を設けて調査研究を行い、最終的にはプレゼンテーションに挑戦させることで、課題についての成果を得ることができると推測する。

3. 経緯と状況

本年度は2年生の普通科で10名とALT1名、普通科看護医療・健康類型で2名、国際探求学科で2名とALT3名の、合計17名の教員が担当した。どの学科・類型も、昨年度の反省も踏まえながら指導することで、より深く探究活動を行うことが出来、発表も全体的により良いものとなった。また、昨年度から学校設定教科として取り組んでいるので、評価は文章表記ではなく、数値での評価を行っている。そのため昨年度のルーブリックとチェックリストを3観点に対応するように改訂した。評価に用いたルーブリックとチェックリストはp44を参照。

年間計画	普通科文系・理系	国際探求学科	普通科特色類型
1学期前半	探究の方法・基礎	探究テーマ設定	探究の方法・基礎
1学期後半	講座に分かれ個人の探究活動	文献検討&小テーマ設定	班をつくり話し合い
2学期前半	個人発表後、班をつくり班別活動	ワークショップ、アンケート、インタビュー実施	班での探究活動
2学期後半	班別活動と発表のためのパワポ作成	調査内容の整理&考察	
3学期	発表会のためのポスター作成	発表会に向けて	発表会に向けて
成果発表会 (抜粋)	1/31 (水) 51回生「探究応用」発表会(全班ポスター発表)		1/27(土) 探究応用報告会(口頭発表)
	2/ 3 (土) SSH生徒研究発表会 口頭発表4班・ポスター発表15班		
	1/28 (日) SDGsフェア inAMA2024 口頭発表5班		
		1/20 (土) 神戸市外国語大学の学生とポスター発表交流会	2/3 (土)・3/3 (日) 在宅療養ワークショップにて発表 3/21 (木) 「災害時の生きづらさ」上演(演劇)

4. 事業の内容

普通科は水曜日3、4時間目の2単位、国際探求学科は木曜日7時間目の1単位で実施した。普通科看護医療・健康類型は月曜日2時間目と木曜日の1限目の2単位で実施した。普通科(159人・51テーマ)国際探求学科(34人・6テーマ)について、ポスター発表の際に、関連するSDGsのアイコンを掲示した。

令和5年度「探究応用」のSDGsによるテーマ分類(延べ件数)

[1 貧困] 2件	[2 飢餓] 2件	[3 保健] 9件	[4 教育] 14件	[5 ジェンダー] 3件	[6 水・衛生] 2件	[7 エネルギー] 1件	[8 経済成長と雇用] 1件	[9 産業・産業化(イノベーション)] 4件
[10 不平等] 6件	[11 持続可能な都市] 19件	[12 持続可能な消費と生産] 10件	[13 気候変動] 3件	[14 海洋資源] 2件	[15 陸上資源] 4件	[16 平和] 2件	[17 実施手段]	4件

5. 事業の効果とその評価

生徒達への事後アンケートでは、昨年度は家庭科に関連が高いと答えた生徒が多かったが、今年度は、歴史・公民科と答える生徒が多かった。また、探究活動が面白かったと答える生徒は98%(昨年度92%)に及び、探究活動が将来の役に立つと答えた生徒が83%(昨年度77%)となった。また、探究活動を行うにあたって必要な力は探究心と考察力、分析力と感じ、それらが活動によって身についたと感じる生徒が多くいた。さらに校内発表会について、発表を聞いてもらって良かった生徒が90%、他班の発表を聞いて良かった生徒が98%に及ぶので、発表会の意味、重要性を強く感じた。

3年 普通科、国際探求学科の「探究実践」の取組

1. 概要

2年生までに行ってきた探究活動を振り返り文章化することで、これまでの活動を整理し文章で表現できる力を身につけることを目指す。また、自身がどのようなことを学んできたのか、どのような力が身についたのかを改めて確認させることを目指す。さらに、本年度より学校設定教科「小田高リサーチ」の学校設定科目「探究実践」を設定して取り組んでおり、今まで学んできたことを基盤とし、卒業後どのように知識を生かしていけばよいのかを各講座を通して理解していく。

2. 仮説

- ① 自身の活動を文章化することで、整理し表現する力を身につけることができる。
- ② 自身の活動を振り返り、どのような力を身につけることができたのかを自覚する。
- ③ 自身が学んできたことと、社会とのつながりを理解する。

3. 経緯と状況

3年生の特色類型を含む普通科5クラスと国際探求学科1クラスの合計6クラスを12名の教員が担当した。1学期は1クラスに教員2人ずつのT.T.で探究活動の文章化の指導を行った。2学期は教員がそれぞれ講座を用意し、12の講座を生徒は1時間ずつ順番に受けていく方法をとった。3学期は今までの探究活動の振り返りを行った。

4. 事業の内容

2年生までは普通科の特色類型と国際探求学科の「総合的な探究の時間」は単位数の違いや活動の違いがあるが、3年生の「総合的な探究の時間」を共通して学校設定教科「小田高リサーチ」の学校設定科目「探究実践」と設定し、金曜日4時間目の1単位で実施した。

5. 事業の効果とその評価

生徒達への事後アンケートの結果、1学期の文章化については、自身の力になったと答えた生徒が89%、将来の役に立つと思った生徒が82%であり、文章としてまとめる必要性和難しさを感じることができたと思われる。また、1学期に文章化した全生徒の内容について、「50回生探究活動報告集」として冊子にまとめた。2学期の講座ごとの学習については、取り組んでよかったと答える生徒が94%、将来の役に立つと思った生徒が90%であり、学校での学びと社会とのつながりを感じることができたのではないかと思われる。特に将来の役に立つと思った講座は、「必見！マナー講座」「エンジニアの1日」「タイピング～制限時間内にできるかな？～」であった。